

「富山きときと空港」の新たな展開

富山県台北ビジネスサポートデスク

(株)ジェック経営コンサルタント台北事務所 所長 平川 正紘

1. 富山-台北（桃園）便が二年連続、冬ダイヤ、週4便を維持

2018年夏「富山-台北（桃園）便が二年連続、冬ダイヤ、週4便を維持」というニュースが飛び込んできた。これは今までの官民一体となった日台交流の成果である。

2018年は「とやま観光推進機構と台湾観光協会」、「台湾医薬工業技術発展センターと富山県薬業連合会」によるMOUの締結、「菊島澎湖離島横断マラソンと富山マラソン」による姉妹レースの提携など、富山と台湾の関係において重要な一年であった。加えて2019年には「日台観光サミット」及び「台日交流サミット」が富山県で開催されることも決定しており、官民一体となった交流が更に進むことは間違いない。

相互間交流が拡大する中、今、「富山きときと空港」では新たな取り組みが始まっている。それは物流である。2018年12月には富山きときと空港を活用して「朝どれの鮮魚を、その日のうちに消費者の口に届ける」、「冷蔵処理を施したチューリップ球根を台湾へ!」というプロジェクトが進んでいる。

2. 「粹鮭」三井アウトレットパーク台中港にオープン

2018年12月12日「三井アウトレットパーク台中港」がグランドオープンを迎えた。同施設のフードコートには富山湾の魚介類を使用した海鮮丼のお店が存在感を示す。その名は「粹鮭」。

なんと富山で水揚げされた鮮魚が当日・翌日に

台中で食することができるというから驚きだ。同社は2017年より台湾への出店をリサーチしており、最終的には現地企業と提携という形式で出店を選択した。加えて現地市場調査と並行して、物流面も入念に調査を重ねており、輸出入のルートを構築するなど、富山湾へのこだわりは強い。

台湾現地のシェフである「林孟輝氏」も富山を訪れ、氷見漁港をはじめ富山県内を見て回ったという。林氏曰く「富山湾は台湾には無い魚種も多く、また何よりその品質は素晴らしく、この良さを多くの台湾人に味わってほしい」と意気込みを語る。粹鮭の梶博司社長も「実際に富山空港を活用することで、既存の流通ルートより1~1.5日間リードタイムを短縮することができた。当店で新鮮な富山湾の魚介類を召し上がっていただき、それをきっかけに富山に来てほしい」とその成果に顔をほころばす。

今後は富山湾の魚を初めて食べた場所が「粹鮭三井アウトレットパーク台中港」という台湾人も増え、また同店をきっかけに富山を訪れる人も現れるであろう。



お客様で賑わう粹鮭三井アウトレットパーク台中港店



意気込みを語る、台湾現地のシェフ「林孟輝氏」

3. 砺波のチューリップ球根が台湾嘉義市へ

砺波市及び富山県花卉球根農業協同組合は2015年から、かねてより親交のあった台湾嘉義市において砺波市産のチューリップ球根を用いた開花試験に取り組んでいる。その一環で2016、2017年度は「嘉義市文雅小学校」に「水栽培キット」を寄贈するなど、花育に取り組んできた。2018年度にはお互い協議を重ね売買契約を結び、砺波市産のチューリップ球根900球が台湾嘉義市へ輸出されることとなった。

また2018年度は台北市とも新たな取り組みを開始し、富山県産の「とやまレッド」「黄小町」など6品種6,550個の球根が輸出された。富山と台湾では気候が異なるため、チューリップ球根を無事開花させるための育成方法に関して何度も議論が行われた。また輸出のタイミングに合わせて「富山県花卉球根農業協同組合」の職員が訪台して栽培の指導を行うなど支援体制も抜かりない。

台北市に輸出された球根は「2019士林官邸チューリップ展」において砺波コーナーを設け、展示された。

期間：2019年2月21日～3月3日

場所：士林官邸（台北市士林区福林路60号）

本イベントのオープニングセレモニーには夏野修・砺波市長らが訪れ、柯文哲・台北市長に砺波産のチューリップの花束や「2019となみチューリップフェア」の招待状などが手渡された。また既に次年度の輸出に向けた話し合いも進んでおり、チューリップによる富山と台湾の今後の交流がより一層、期待される。



チューリップ球根の輸出準備の様子



台北現地で球根の育成方法を指導する様子



2019士林官邸チューリップ展オープニングイベント

4. 富山きときと空港の今後

「富山空港国際路線利用促進協議会」も富山きときと空港における国際航空貨物の取扱量の増大を図るため、その支援に取り組んでいる。（事業名：「富山きときと空港航空貨物トライアル輸送事業」）

本事業では既存路線と富山きときと空港のコストやリードタイムなどの検証（輸送実験）を行う事業者又はフォワーダー（貨物利用運送業者）に対して、国内輸送費、梱包料、国内荷役料、輸出入諸経費、航空輸送費を助成している。（助成率1/2、限度額50万円）

上述のチューリップ球根の輸出にも本事業が活用されており、他にも伝統工芸品の事業所から、問い合わせがあるなど関心も高い。このように富山と台湾の交流が深化することで、富山-台北（桃園）便の維持・増加へと繋がる。富山-台北（桃園）便が通年通してデイリー運航することも、そう遠くはないかもしれない。